

神奈川県大運動実行委員会主催講演会

ナチスと排外主義 ～参議院議員選挙と 現代ドイツの極右～

2025年9月16日 神商連会館

山根徹也(横浜市立大学教授)

はじめに

今年の参議院選挙～極右政党の躍進

- ・ 参政党の場合 得票率
(2020年結党)

2022年7月参議院 (比例) 3.33% (議席 1 を獲得)

2024年10月衆議院 (比例) 3.43%

2025年7月参議院 (比例) 12.55% (14議席、非改選と合計15)

- ・ ほかに極右政党 日本保守党も2024年から議席獲得

2024年10月衆議院 (比例) 2.20%

2025年7月参議院 (比例) 5.04% (2議席)

比べて考える

- 参政党という現象
- 1930年代ドイツ、ナチス
- 現在のドイツ 極右政党 AfD
- 現代社会の問題のあらわれとして

1. 参政党という現象

参政党の主張の特徴～「新日本憲法」から

- 立憲主義の否定 憲法制定
- 民主主義＝国民主権 の否定／天皇制＝「國體」
「日本は、天皇のしらす君民一体の国家である。」 「天皇は…詔勅を発する。」
「国は、主権を有し」「統治は、國體を尊重し、全国民のため、和の精神をもって行う。」
- 基本的人権の廃棄
「個人や団体の利益…その追求は、公益に配慮して行うことを要する。」
- 排外主義・民族差別・人種主義・思想統制
「国民の要件は、父または母が日本人であり、日本語を母国語とし、日本を大切にすることを有することを基準として、法律で定める。」 「帰化した者は、三世代を経ない限り、公務に就くことができない。」
- 戦争する国家と軍事動員
「国民は、子孫のために国をまもる義務を負う。」 「国は、自衛のための軍隊を保持する。」

参政党憲法論

自民党の改憲案と比較すると

- 自民党改憲案と方向は同じ

2012年自民党「日本国憲法改正草案」

「天皇を頂く国家」

9条戦争放棄の放棄と国防軍の設置

自由と権利 「公益及び公の秩序」により制限

緊急時における三権分立の廃棄と首相体制＝緊急事態条項

（参政党案では独立条としては置かれていないが、全体がすでに緊急事態状態）

- 参政党案との違い

参政党案はさらに露骨、立憲主義・民主主義を明示的に（自民案は暗黙のうちに）否定するのが違い

参政党の躍進の背景

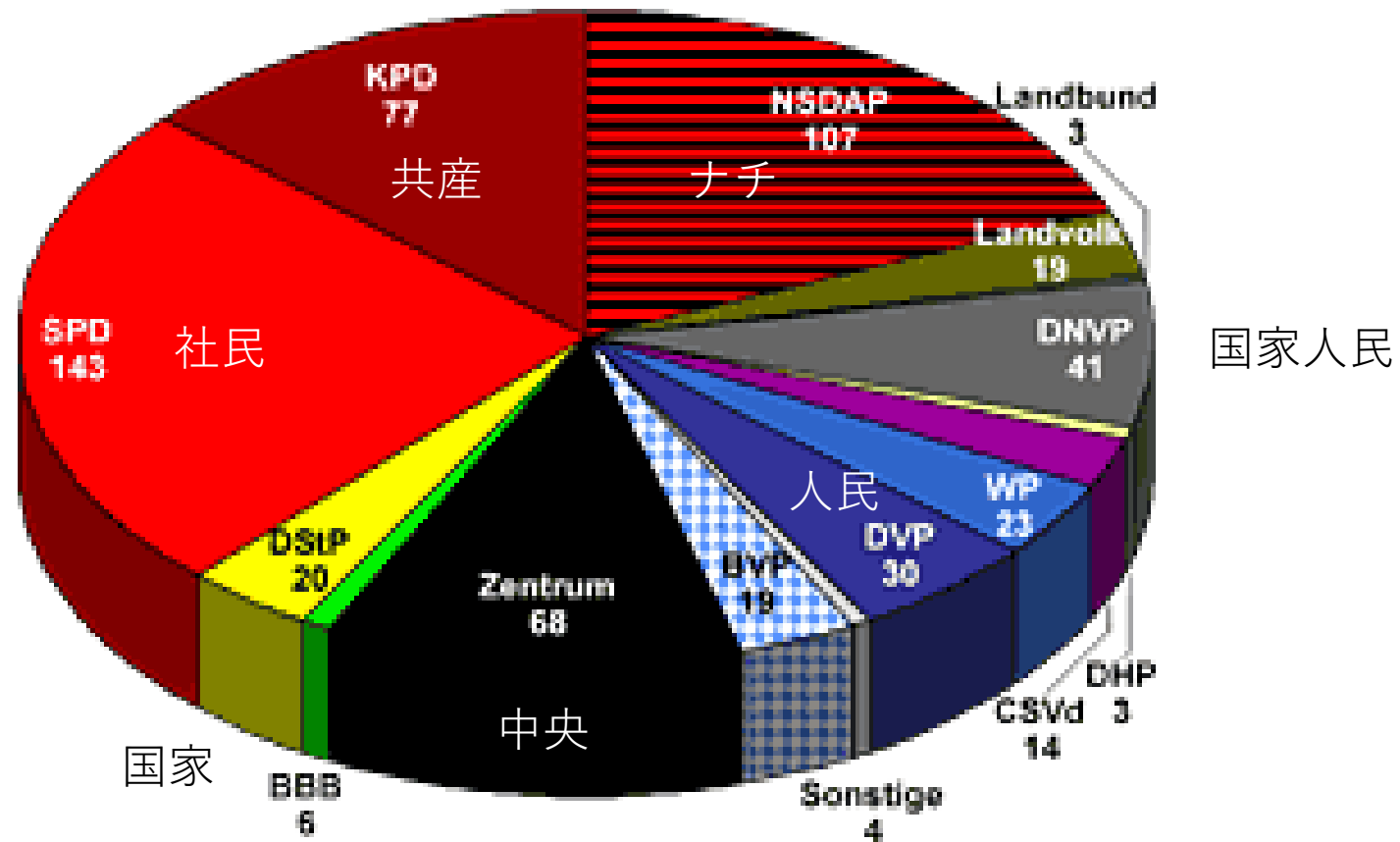
- SNSなど宣伝技術のうまさ
- 地方選挙を通じての組織づくり
- 大衆の経済的苦境（特に中間層下層から支持？）
 - インフレ、コメ
 - 低迷する賃金
 - 新自由主義政策 生活の不安定化・非正規労働の拡大
 - 大資本の利益のための消費税増税／法人税減・所得税累進性の緩和
 - グローバル化による経済の空洞化
- 日本経済の衰退
- 排外主義～大衆の漠然とした不安の源の「説明」として排外宣伝が浸透
 - 克服できていない旧来の民族差別
 - 急増しているように見える事実上の移民／報道でめだつオーバーツーリズム問題
 - ネット上のデマ

2. ナチスの歴史

歴史～ナチスの国会選挙での得票率

- 1928年 2.63%
(1929年 世界恐慌が始まる)
- 1930年 18.33%
- 1932年7月 37.36% (投票率84.06%)
- 1932年11月 33.09%
(1933年1月 ヒトラー首相に任命さる)
- 1933年3月 (政府テロルのもと) 43.91% (他の与党2.49%)

Sitzverteilung im 5. Reichstag



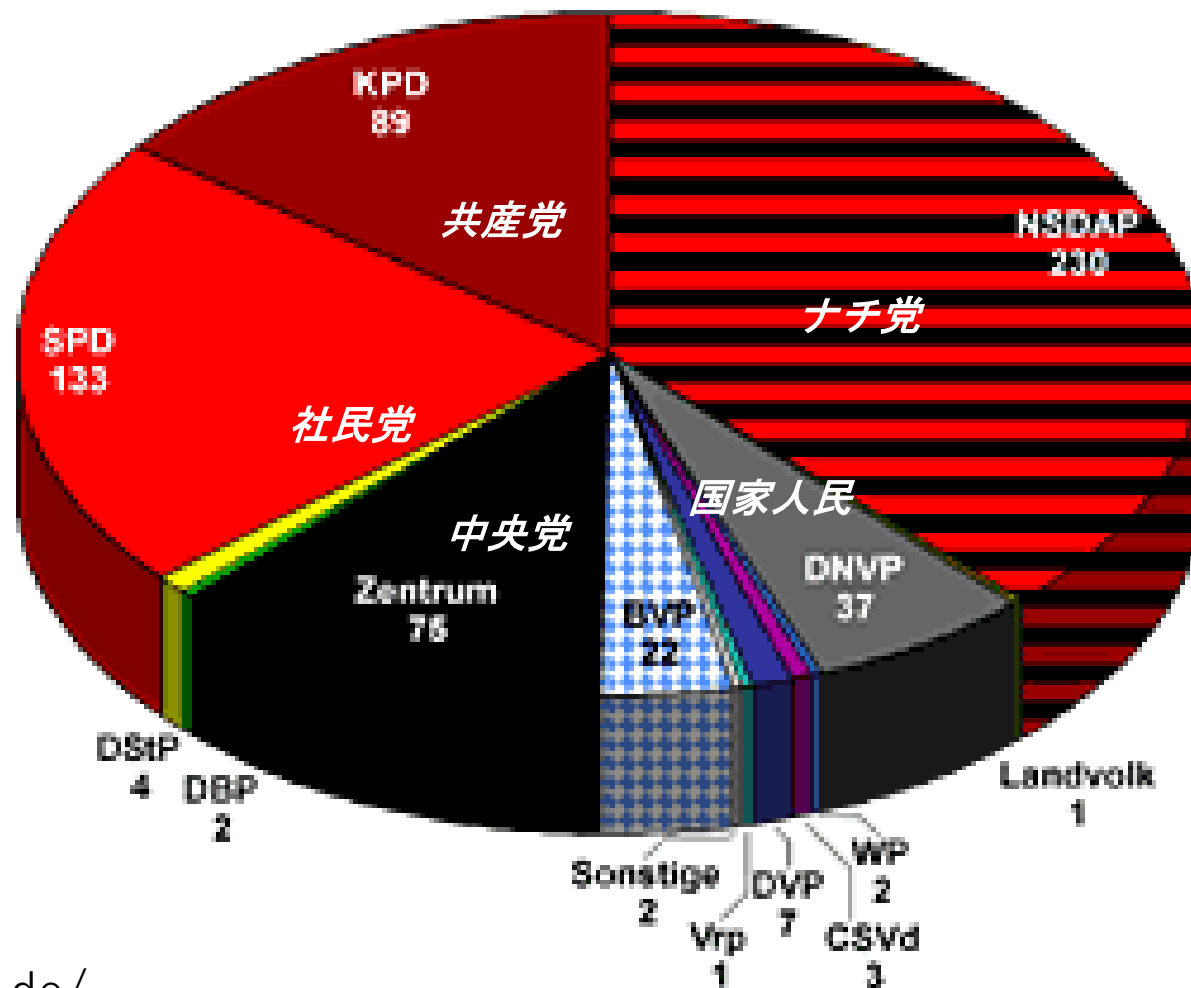
1930年国会選挙結果（1930年9月）

<http://www.gonschior.de/weimar/Deutschland/RT5.html>

全577議席

注：国家党はもと民主党

第6国会（1932年7月選挙）
政党別議席数（608議席中）



<http://www.gonschior.de/>



ドイツ国会

1938年3月

(出典：
<https://catalog.archives.gov/id/535792?q=208-N-39843>)

ナチスの主張と特徴

- ナショナリズム・人種主義（反ユダヤ主義）
- 排除：人種主義（反ユダヤ主義）、さまざまな少数者への差別・排除・殺戮
対象：「民族共同体」に有害とみなされた人々
ユダヤ人、あらゆる反対派（特に左翼）・非同調的な人
障がい者、同性愛者、「反社会的分子」、「非ドイツ的」芸術など
- 反議会制民主主義
- 人間の尊厳を無視・基本的人権原則を否定
- 帝国主義・侵略主義・軍国主義
- ヒトラー独裁・ヒトラー崇拜（「指導者原理」）
- テロル（街頭での暴力／権力行使を通じてのテロル）、ホロコースト
- 大衆迎合の側面：農業保護、大資本批判、既成秩序批判なども宣伝（保守派との違い）

「遺伝病患者」差別プロパガンダ 1935年ごろ



「遺伝病患者のために国家は、1日あたり
5 マルク50ペニヒ負担している。」

「5 マルク50ペニヒで、遺伝的に健
康な家族一つが1日生活できる。」

ナチスと参政党の宣伝の比較

- 共通点

- 民主主義の否定

- ナショナリズム・人種主義と排外主義：

- 諸悪の根源は「非国民」＝外国人またはユダヤ人

- 福祉から少数者の排除：

- (参政党) 外国人、高齢者福祉

- (ナチス) ユダヤ人、障がい者

- LGBTQ排除／セクシズム

- 軍国主義

- 陰謀論

- 「体制批判」にみえる大衆迎合的または革新的主張

- 農業重視、オーガニック農法

- (ナチス) 大資本批判、(参政党は) 「金融資本」批判、消費税廃止論

(つづき)

- 共通点 (つづき)

現代的な宣伝技術／宣伝の巧みさ

- 違い

日常的な街頭暴力行使の有無

暴力による権力獲得の発想の有無

露骨な侵略主義宣伝の有無

伝統的権威との関係：「國體」か「民族共同体」かの違い

大衆的な組織の大きさ

(おそらく) 大衆的支持の大きさ



ワイマール共和国第2代大統領ヒンデنبルク（保守派・軍人）
（在職 1925～1934年）

Bundesarchiv, Bild 183-C06886 / CC-BY-SA 3.0, CC BY-SA 3.0 de, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=5432793>¹による

ナチスの権力掌握過程

- 世界恐慌のもとでの大衆の苦境

資本主義体制と中道政治・保守派政治の危機

中間層、特に農民（しかし未組織労働者層も）から支持

中間層大衆では左翼への反感（労働者下層では左翼、共産党支持が伸長）

ナショナリズムの浸透

→ ナショナリズム、反左翼、反中道政治、保守派批判の混合物＝ナチスへの支持

- ナチス単独では政権獲得は不可能

- 保守派＝支配層との野合

ヒトラー首相任命 1933年1月 ←保守派大統領ヒンデンブルクらの抱き込み策

ナチス、ヒトラー首相就任直後から憲法の緊急事態条項を利用してテロル

→まもなくナチス一党独裁体制へ（保守派も権力を失う）

現在の日本と当時のドイツ 似たところ／異なるところ

• 似たところ

- 資本主義の危機と生活の不安定化／極右への、不安を感じる大衆の期待
- 極右 排除の論理・ナショナリズムで動員／既成体制批判の要素

• 異なるところ

- 経済危機の深刻度
- 民主主義理念の浸透度
- 極右の大衆の動員の度合い（まだわからないが）
- 1930年代初頭のドイツでは、左派労働者政党も強い
ドイツ共産党は躍進／社会民主党は勢力維持 →保守支配層の危機感が大
ただし分裂が激しく、共同でナチスに対抗できない。

• まだわからないこと

支配階級（財界・保守政党）の極右への許容度

3. 現代ドイツの極右政党 AfD

現代のドイツ～復活する極右

- 極右政党「AfD ドイツのための選択肢」

2013年結成 当初は欧州統合懐疑派の中道右派政党

その後、右に向かって変質、急進化

- 極右的特徴（単なる右派政党か？ 極右政党か？）

綱領ではふつうの保守派、民主主義政党としてふるまう。

保守派（CDU）を右から批判：欧州懐疑／移民・難民規制

排外主義、移民・難民を敵視（Remigration）特にイスラム系の人々の排除

性差別：LGBTQの権利を敵視（同性婚に反対など）／一部でフェミニズムを敵視

再生可能エネルギー重視政策に反対

内部にネオナチ的傾向（反民主主義、人種差別肯定、ナチズム肯定の発言）

親ロシア的

- ネオリベラリズム的経済政策： 所得税減、社会福祉予算の圧縮など



AfD党首
ワイデル氏
クルパラ氏

出典：Von Sandro Halank,
Wikimedia CommonsSteffen
Prößdorf - Diese Datei ist ein
Ausschnitt aus einer anderen Datei,
CC BY 4.0,
[https://commons.wikimedia.org/w/
index.php?curid=110092641](https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=110092641)



（報道から）

「参政・神谷氏、独極右の共同党首と会談 SNSに「近く私も欧州に

参政党の神谷宗幣代表は5日、ドイツで排外主義的な主張を掲げて勢いを増す最大野党の極右「ドイツのための選択肢（AfD）」の共同党首のクルパラ氏と国会の事務所で会談したと明らかにした。同日夜、X（旧ツイッター）の自らのアカウントに投稿した。…」

（『朝日新聞』 2025年8月5日）

参政党との比較

- 似ている
- 綱領・公式の憲法観では違いも
参政党の方が反民主主義的：ファシズム政党と言える。
AfD、表向きは民主主義を擁護（ただし排外主義）
- 党活動家レベルでは
両党とも内部が多様。
両党で、極右的発言をする者もめだつ。
（違い）ドイツにはテロリスト的、ネオナチ的極右勢力が存在
AfDとの関係の程度は不明
- 経済政策で違い （実は参政党もネオリベラリズム的？）

AfDの躍進

- 連邦議会

2013年 4.7% (議席なし)

2017年 12.6

2021年 10.4

2025年 20.8

- 東部諸州で

例 テューリンゲン州議会

2014年 10.6%

2019年 23.4 (左翼党に次ぎ、第2党)

2024年 32.8 (第1党)

ドイツ連邦議会選挙結果 (2025年2月23日)

(tagesschauサイトから)

Bundestagswahl 2025

Sitzverteilung (630 Sitze)

SPD	120
Union	208
Grüne	85
AfD	152
Linke	64
SSW	1



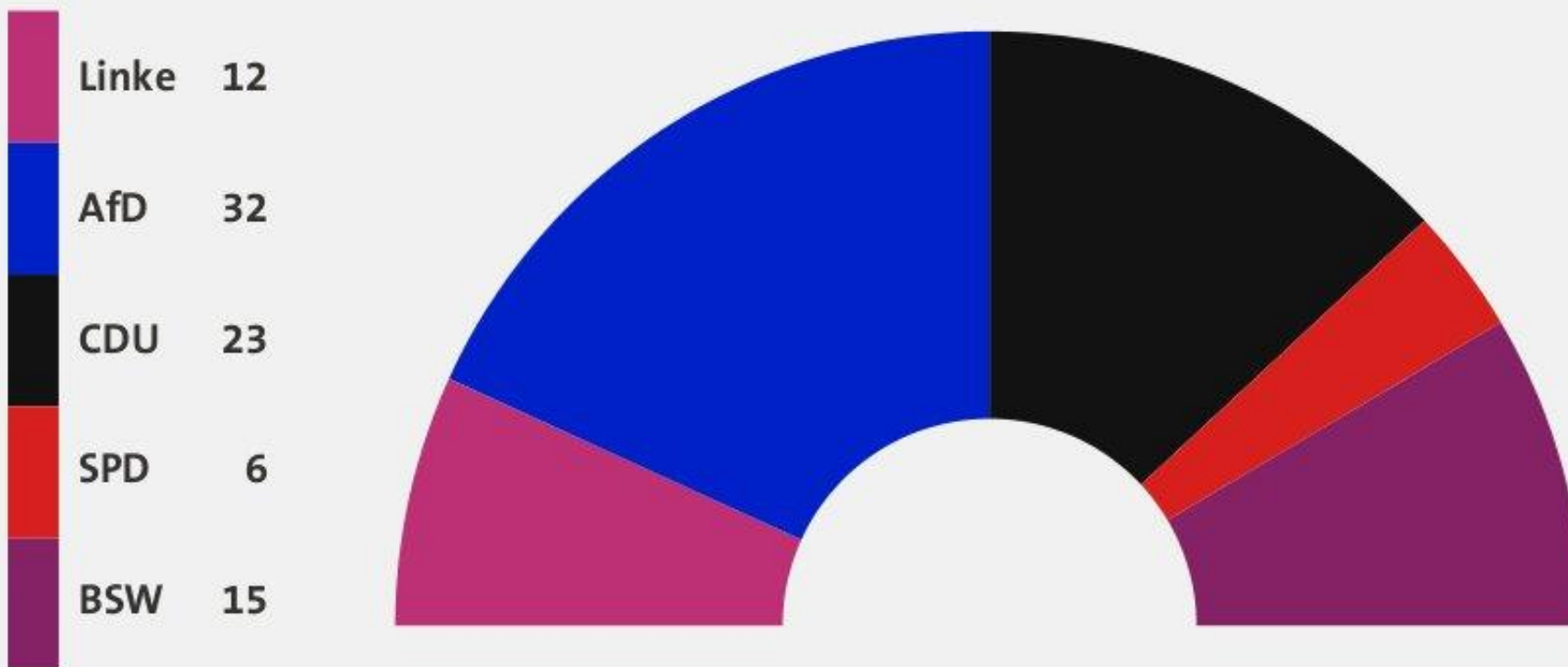
Bundestagswahlleiterin, 630 Sitze



テューリンゲン州選挙結果 2024年

(tagesschauサイトから)

Landtagswahl Thüringen 2024 Sitzverteilung (88 Sitze)



Der Landeswahlleiter, 88 Sitze



AfD躍進の背景

- 経済危機→さまざまな現状不満の吸収
エネルギー危機／ロシア制裁への反感／コロナ期のロックダウンへの反感 等々
- 排外主義的な偏見を助長
デマにより不満をそらす
CDUメルケル政権のもとでの難民受け入れ政策と難民急増
- 大資本の利益を防衛する役割（ネオリベ）
- 特に東ドイツ大衆を惹きつける
再統一後30年以上続く格差
旧東独経済の衰退と停滞
- 戦後反ナチズム思想の防波堤により抑制
- 保守派全体（現政権）が右傾化する危険

ドイツ社会の反応

- 極右層ではない右派支持層も支持（CDUから移動）
- 主流派・左派にショック
 - 中道右派・保守派 CDUが後退
 - 中道左派 社会民主党・緑の党も後退
 - 極右の想定外の進出
 - 連邦憲法擁護局 「確実に極右的」の判定（今年5月）（政党禁止論が出ている）
- 現政権（CDU主導）に右への移動の傾向
- 「防火壁」を守れるかどうか
- 反極右デモもさかん
- 今年の連邦議会選挙では、AfDの躍進と同時に、左派「左翼党」復活



反右派デモ 1月14日 ベルリン

(By Lucas Werkmeister - Own work, CC BY 4.0, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=143971009>)

むすびにかえて

極右勢力、ファシズムの台頭と対処

- 社会不安への応答として
- 支配階級と結合すると危険
- 政治の主流を右に動かす危険性
- 対処法

(ドイツではAfD禁止検討の動きがあるが、日本ではそれは不可能かつ不適切)
社会問題の原因を示す。大資本中心の経済、経済政策、グローバル化
社会的問題は正しくはどう解決できるかを示す。労働運動・市民運動・左派
日本では、改憲と軍拡の動きに対抗する
外国人労働者・難民と一般市民の交流・対話
差別しない開かれた民主主義原則の理解を広める／幅広い市民連携
ソーシャルメディアへの対処、参加

参考文献

- 小野寺拓也・田野大輔『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』(岩波ブックレット 1080、2023年)
- 藤原辰史「高速道路と獣道－参政党が支持される背景について」(『地平』2025年10月号)
- 田辺俊介「排外主義の成り立つ地点-価値観と情報空間にみる底流」(同上)
- 瀧大和「再来する「虐殺の文法」-「トライバル化」と排外主義政治の台頭」(同上)
- マルカントゥオーニ・ロメオ「参政党の台頭はなぜ可能になったか-解かれた極右の封印」(同上)
- 伊藤昌亮「参政党 「真ん中」からの反革命」(『世界』2025年10月号)
- Werner J. Patzelt, *Deutschlands blaues Wunder. Die AfD und der Populismus*, München 2025